

平成26年度日本語教育研究協議会（福島）

「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ  
第2分科会

# 行動・体験中心の教室活動を デザインしてみよう

—教材例集を参考に—

名古屋大学とよた日本語学習支援システム

北村 祐人

# 0. 講師・団体紹介

- ・北村祐人（きたむらゆうと）
- ・名古屋大学とよた日本語学習支援システム  
システム・コーディネーター
- ・約10年ほど前から地域日本語教育に関わる
- ・詳しくはWebで！

<http://www.toyota-j.com/>

はじめに

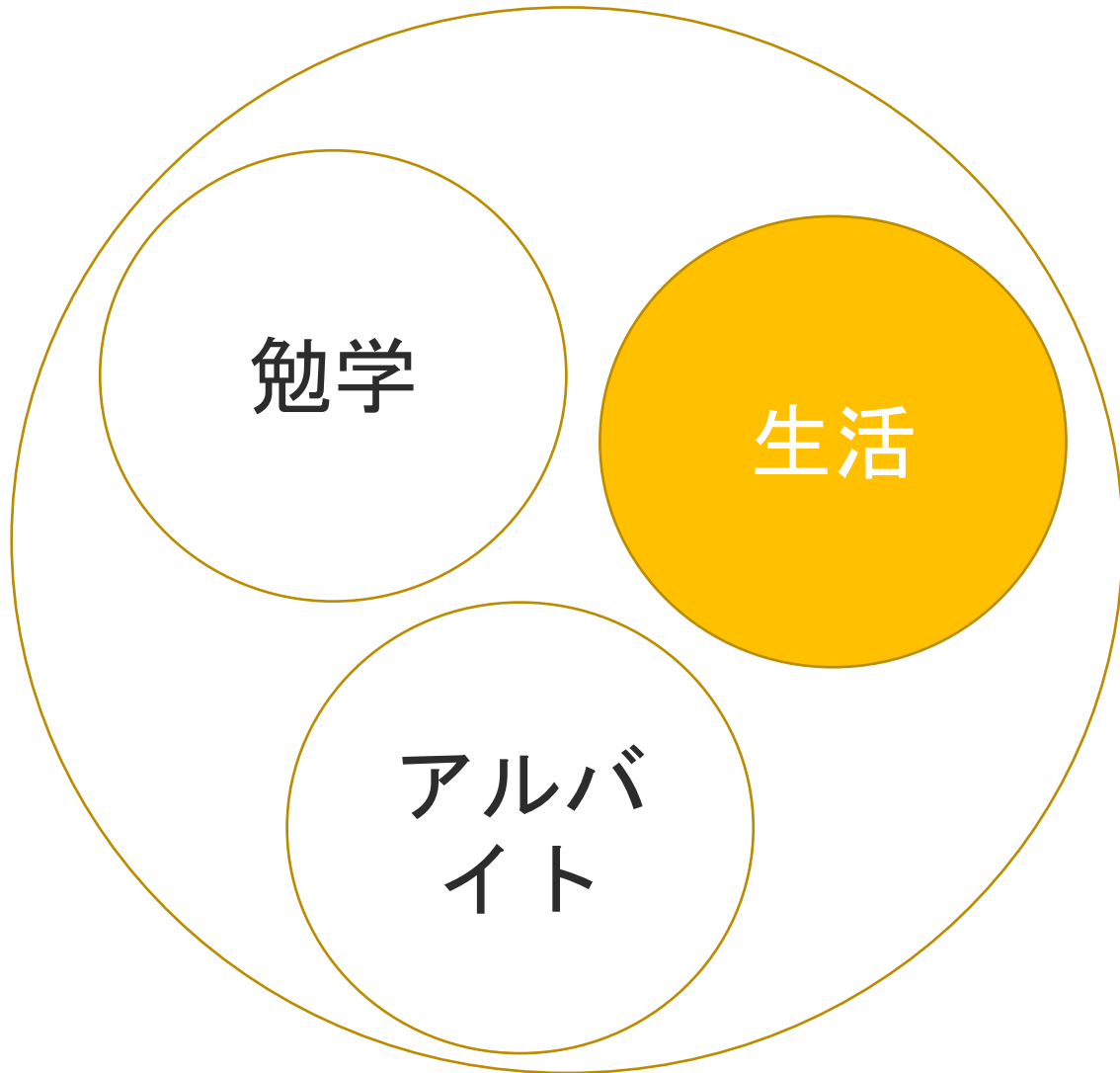
# 1. ねらい

- (1) 「生活者としての外国人」の日本語学習を考える
  - ①地域の学習者特性から
  - ②カリキュラム案編集の経緯から
- (2) なぜ「行動・体験中心の教室活動」なのか考える
  - ①ワークショップを通して
  - ②カリキュラム案「5点セット」から
- (3) 実際にデザインする方法を考える
  - ①ワークショップを通して

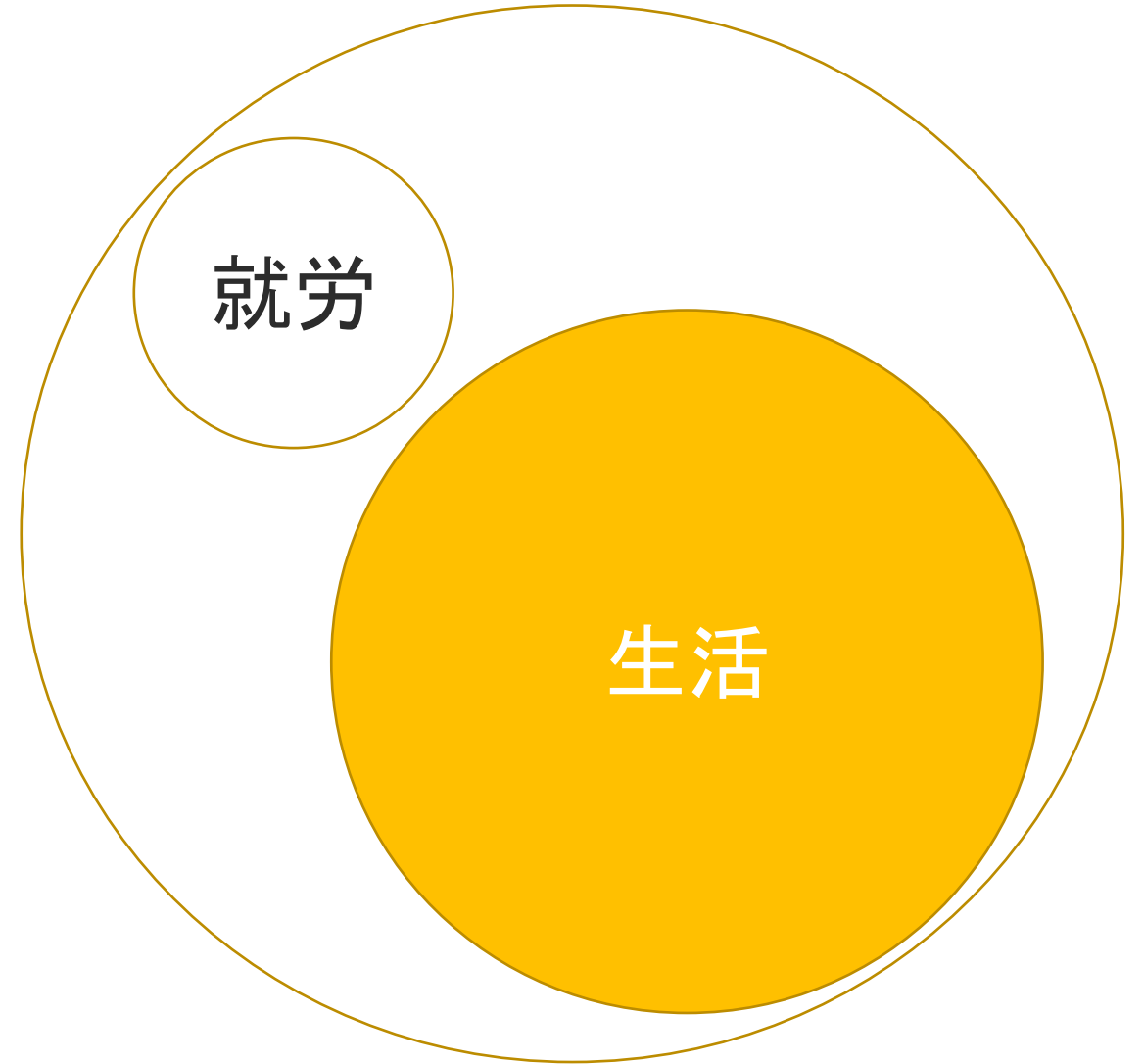
## 2. カリキュラム案とは

- ・ 5点セットの中核となるもの
- ・ 正式名称「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
- ・ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指針
- ・ 「対話による相互理解の促進及びコミュニケーション能力の向上を図り、「生活者としての外国人」が日本語を用いて社会生活へ参加できるようにすることを目指す  
(ガイドブックP1)

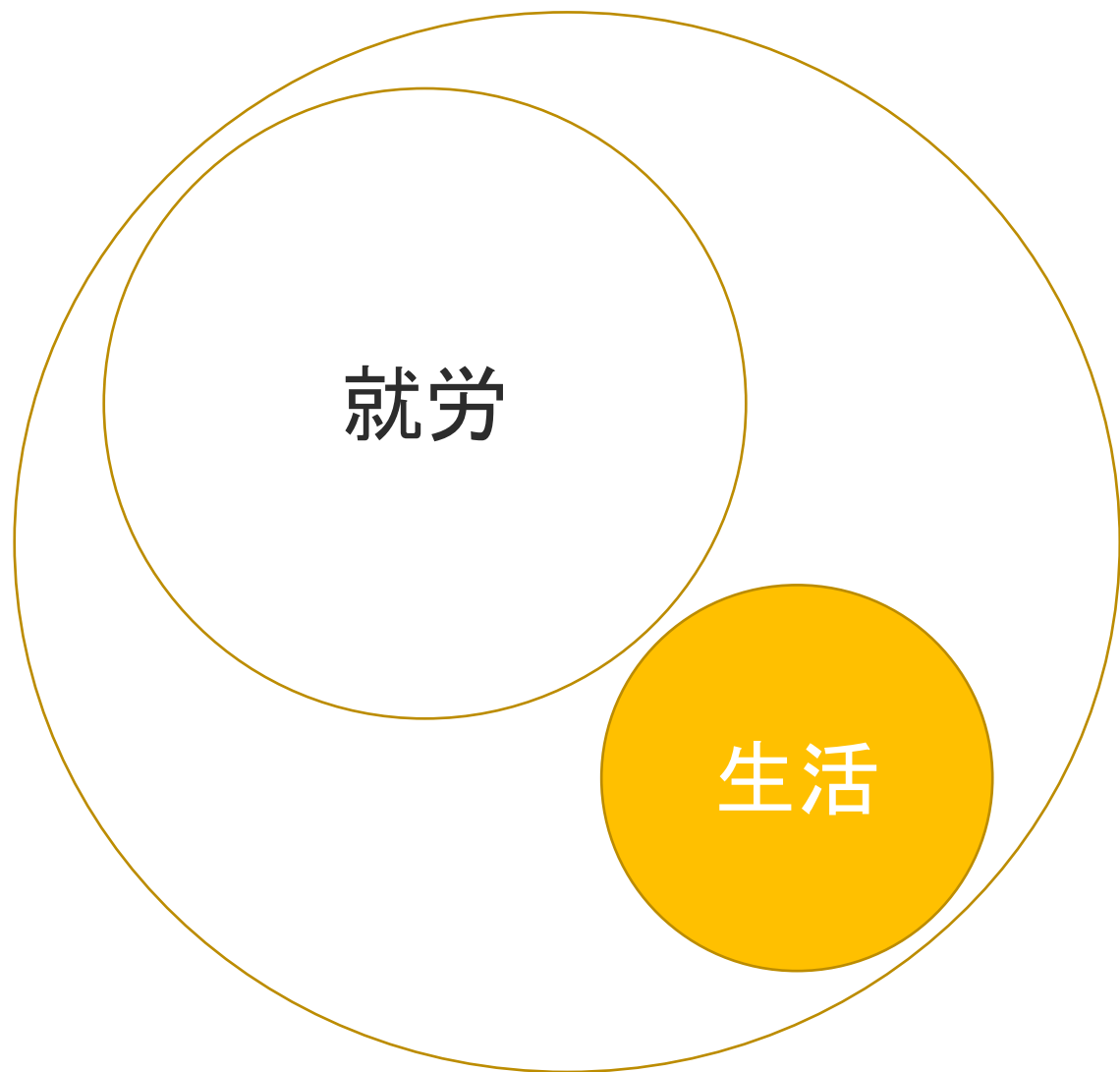
# 留学生



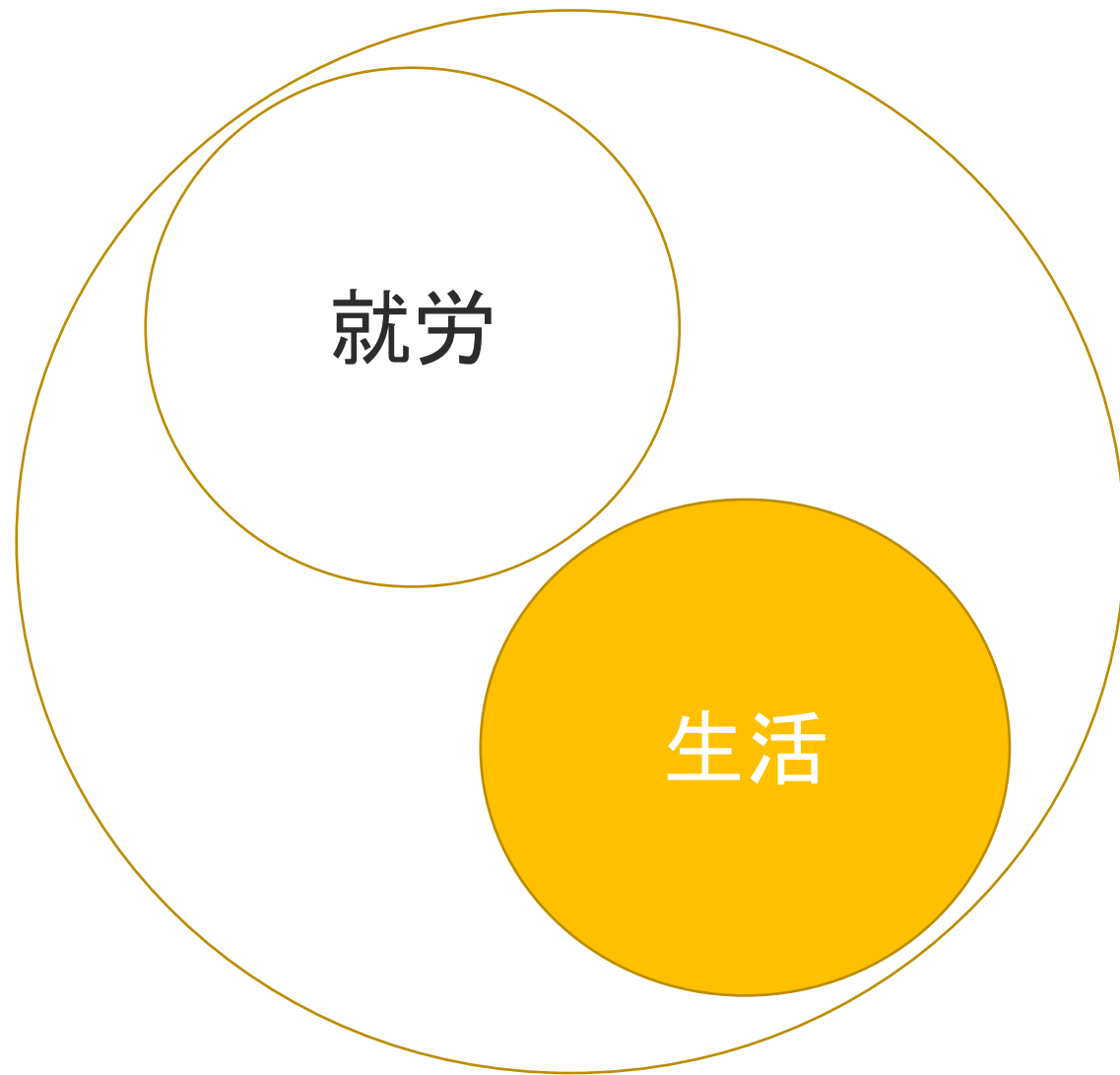
# 主婦



# 技能実習生



# 日系南米人



# 生活者としての外国人のための日本語教育

## (1) 目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り生活できるようになること

(カリキュラム案P2)



# 生活者としての外国人のための日本語教育

## (2) 目標

- ・日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- ・日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- ・日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- ・日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

(カリキュラム案P2)

# 日本語教育の内容・方法の改善における成果物

平成19年7月 定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」  
①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担, ②各機関の連携協力の在り方, ③コーディネート機関・人材の必要性, ④日本語教育の内容の大枠の提示 ※④に基づき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「**外国人が地域で生活できるようになり、社会参加できる**」ようになるために必要な日本語教育の考え方、各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。

H22.5.19

①「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について

・「知る」ではなく「できるようになる」ことが期待される生活上の行為を提示。  
・各地域が地域の実情に合わせて、独自のプログラムを作るための案。

H23.1.25

②「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について  
活用のためのガイドブック

・地域の実情把握からプログラム開発・実践まで、カリキュラム案に準拠し、地域の日本語教育の展開する上で必要な手順を提示。

H24.1.31

③「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材例集

・生活の基盤形成・社会参加につなげる日本語教育の教材を例示。  
・各地域で工夫を加え、外国人の地域社会への参加につなげるためのアイデアを指導ノートに記載。

H24.1.31

④「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

・日本語教育の実践と関連付けた評価の在り方について提案。日本語能力の把握を行う方法と学習履歴・能力を記録するファイルを提示したもの。

H25.2.18

⑤「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指導力評価について

・日本語教育プログラムの実践者がPDCAサイクルに基づいて、自らの指導力を評価するチェックシートをはじめとする指導力向上のための日本語指導力ポートフォリオを提示。

各地域において、上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し、日本語教育を通じて、外国人が地域社会とつながり、外国人の社会参加(エンパワメント)・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し、日本語教育に関する課題の洗い出し、整理を実施。  
平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」を取りまとめ。

なぜ「行動・体験中心の教室活動」  
なのか考える

# ワーク 1 行動・体験について考えよう

- ・日本語教室の行動・体験であなたがやったことがあるものは何ですか？
- ・その行動・体験は何のために設定されたものですか？

# 行動・体験について意見交換

行動・体験は何のため？

カリキュラム案がなぜ「行動・体験」？

# カリキュラム案って何のため？

- ・「生活者としての外国人」のための日本語教育のため
- ・「生活者としての外国人」の社会生活の参加をめざす
- ・対話による相互理解の促進とコミュニケーションの向上



# 「生活者としての外国人」のことばの学習

# 「生活者としての外国人」のことばの学習

仕事

家庭

環境

どう勉強したらいいの？



勉強しても効果がでないよ

# 「生活者としての外国人」のことばの学習

自分には何が  
必要？

ニーズ



こんなこと  
やってみたい

ウォンツ

何が日本語で「できるようになるのか」、  
「なりたいのか」考える！

# 標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例

カリキュラム案  
4ページ

- **健康・安全に暮らす**
  - ・ 健康を保つ
  - ・ 安全を守る
- **住居を確保・維持する**
  - ・ 住居を確保する
  - ・ 住環境を整える
- **消費活動を行う**
  - ・ 物品購入・サービスを利用する
  - ・ お金を管理する
- **目的地に移動する**
  - ・ 公共交通機関を利用する
  - ・ 自力で移動する
- **人とかかわる**
  - ・ 他者との関係を円滑にする
- **社会の一員となる**
  - ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
  - ・ 地域社会に参加する
- **自身を豊かにすることができる**
  - ・ 余暇を楽しむ
- **情報を収集・発信する**
  - ・ 通信する
  - ・ マスメディアを利用する

「労働」「教育」に関するもの→「カリキュラム案」119ページ:別紙Ⅱ 基礎資料に

# 標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について（カリキュラム案 P 1 2～1 3）

- ・標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例

（ガイドブック P 5 3～6 3）

○日本語

○ポルトガル語

○中国語

○スペイン語

○英語

○韓国・朝鮮語

# 学習者と一緒に考えてみよう！

何ができるよう  
になりたい？



どういうときに  
困ってる？

# 生活者としての外国人にとっての「行動・体験」

## 生活上の行為

- ・ 生活上の行為と日本語？
- ・ 状況に応じた言語表現
- ・ ニーズに即した内容

## 達成できる教室活動

- ・ 生活を意識
- ・ 日常を教室活動へ
- ・ やってみる中での日本語の学び

## 教室から地域へ

- ・ 生活は教室の外と密接なかわり
- ・ 必要に応じて外へ
- ・ 内と外の落差をなだらかに
- ・ 地域住民との協働

# 教材例集から考える 「行動・体験」の教室活動



## ワーク 2 考えてみよう！ 「行動・体験」 中心の教室活動

- (1) それぞれのアクティビティの目的は？
- (2) なんでこの順番なの？

指導ノート  
カリキュラム  
案, ガイドブック  
を踏まえた日  
本語教育プロ  
グラムの設定,  
教室活動の展  
開の説明。

イメージを  
つかむ

体験・行動  
する

ことば・表現  
を知る

発展的な  
活動

● 写真・イラストシート

…各ユニットで取り上げる生活上の行為や達成目標をイメージするための写真・イラスト。

■ 活動シート

…生活上の行為ができるようになるためのタスクなど。

(※学習者に合わせて形や内容を変えることが必要。言葉をどれだけ覚えたかではなく「生活上の行為ができるようになるか」が重要。)

◆ ことば・表現シート

…生活上の行為を行う上で役に立つ表現。

(※学習者に合わせて取り上げることば・表現の内容や量を変えることが必要。掲載しているものを全て教室活動で取り上げたり, 教えなければならないわけではない。)

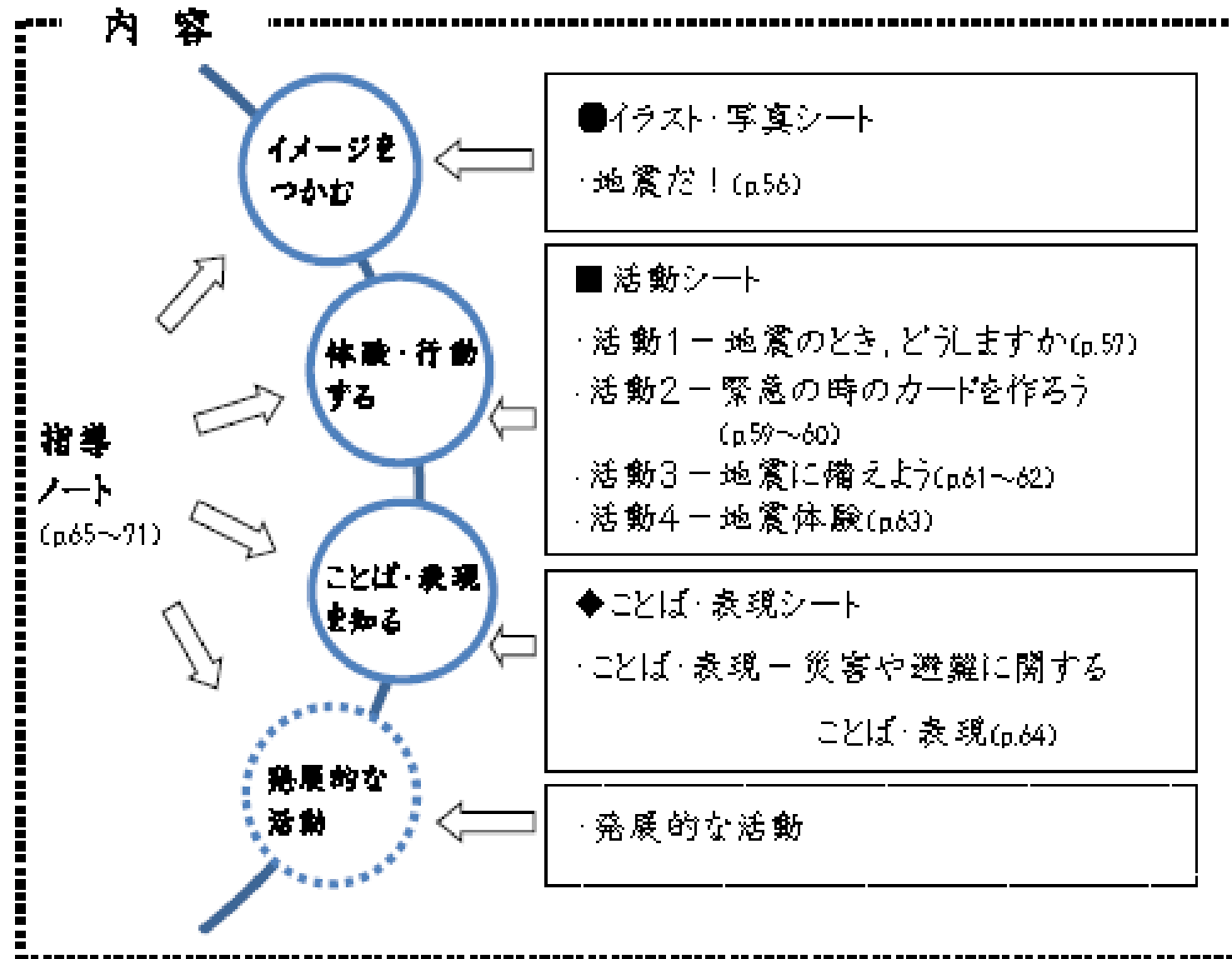
★ 別表, 参考資料等

…発展的な活動, 学習者に合わせた教室活動を行うための素材。

# 事例紹介 教材例集から

# 教材例集：(05)災害に備え,対応する(地震)

教材例集P 5 5



# 事例紹介 豊田市での活動案

## イメージをつかむ（導入教育）

### 体験・行動する（体験活動）

- 出前講座・ワークショップ（映像記録）
- 連携先との協働（映像記録）

### ことば・表現を知る

- 映像記録を学習者と日本語パートナーが視聴し、そこで求められる日本語を使った行動の認識、学習目標の設定を行い、学習する

### 発展的な活動（学習成果の応用）

- 学習成果を地域住民に伝えたり応用したりする。それを通じて、地域の担い手・支援者となる。

# 1. イメージをつかむ 体験・行動する

- ・ 豊田市生涯学習出前講座

# 2. 学習目標の認識・設定

- ・ 映像記録を学習者とボランティアが視聴し、そこで求められる日本語を使った行動の認識、学習目標の設定を行う。

# 3. ことば・表現を知る

- ・ 学習者とボランティアが対話を通して、そこで求められる日本語を学習する

# 4. 発展的な活動

## (学習成果の応用)

- ・ 学習成果を地域住民に伝えたり応用したりする。それを通じて、地域の担い手・支援者となる。
- ・ 「イメージをつかむ」への利用

## 災害について理解しましょう

1) どんな災害を知っていますか。グループで考えましょう。

2) ビデオを見てください。地震がおきるとどうなりますか。  
下のことが出てきます。意味がわからなければ、日本語パートナーに質問してください。わかったら、説明してみましょう。

つぶれる ・ 崩れる ・ 倒れる ・ 壊れる ・ ひびが入る

①建物はどうなりますか。

②家の中はどうなりますか。

③外はどうなりますか。



## ワーク3 つくってみよう！「行動・体験」中心の教室活動

- ・「行動・体験」中心の教室活動はどのようにつくればいいのでしょうか？
- ・今日、学んだことを活かして実際に考えてみましょう。

# 教材例集を使うときに注意すること

- ・ 「『教材例集』中の教材例を使用する際には、適宜修正を加えて、地域の実情や学習者の日本語レベルに合わせて、教材例の内容に手を加えたり、多言語情報を活用したり、母語話者の協力を得る等、工夫を行うことが必要」（『教材例集』p.4, 『ガイドブック』p.4）

あくまで教材「例集」！！